

地域密着型サービス自己評価票

- ・ 指定小規模多機能型居宅介護
(指定介護予防小規模多機能型居宅介護)
- ・ 指定認知症対応型共同生活介護
(指定介護予防認知症対応型共同生活介護)

(よりよい事業所を目指して・・・)

記入年月日	平成 20年 8月 12日
事業所名	グループホーム「白寿の里」 1F
事業所番号	2373900345
記入者名	職名 介護職 氏名 五十嵐 愛
連絡先電話番号	0587-33-5377

(様式1)

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自に掲げる言葉が「百人百介護」一人一人を大切にし、地域に溶け込む開かれた介護施設を理念の柱としています。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の浸透を目指して一人一人の心に届くように折を見て話す傍ら、カンファレンスを積極的に意識改革の場として利用し啓蒙しています。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	開設当初から、施設周辺の住民の皆さんとは積極的に交流し町内会にも加入し、事務所内への訪問も自由に行っている。利用者の家族にも家族会以外にも、事あるごとに利用者の家族へ情報を伝達しています。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	外出行事や喫茶店・散歩時等気軽に声をかけたり、日常的な付き合いが出来るように努めています。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	具体的には、毎年行われるはだか祭りでは、複数のはだか男に来てもらい、祭りの雰囲気を楽しみ、楽しくふれあっています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	認知症高齢者の方への理解や対応性に対する学習の場として、中学・高校・福祉専門校の学生を積極的に受け入れ、認知症高齢者に対する対応の十住の場としています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、具体的な改善に取り組んで改善していく努力をしています。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議でのご家族の意見、包括支援センターの方の意見を日々の生活の中で取り入れています。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組むのとは別に同業他社の事業所と連絡協議会を作りお互いの情報の交換と介護技術の向上に取り組んでいます。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について、個々の必要性を関係者と十分に話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう勉強会や講習には積極的に参加するように業務の一環と位置づけ支援しています。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	カンファレンス、職員会議を定期的実施し、高齢者虐待防止法に関する理解をする事に取り組んでいます。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な時間を掛け利用者や家族等が解りやすい様に説明を行い理解・納得を得る様にしています。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族には、電話や訪問時に中心に問いかけを行い、質問等を連絡してもらえるような環境作りに留意しています。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的白寿たよりや、家族会等で個々にあわせた報告をする様にしています。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が意見や、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ相談する事ができる機会を市役所、包括支援センターに設け、それらの意見や苦情を幅広く吸い上げより良い介護運営に反映させる様にしています。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を積極的に設け、話しやすい雰囲気作りに努め、カンファレス、職員会議時に参加し意見を反映させています。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者や家族の状況の変化に伴ない、利用者や家族の要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するため勤務体制を6通りに分け話し合いや勤務の調整に努めています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>利用者、家族への信頼関係を築くためにも、馴染みの職員や管理者を中心に対応することが重要であると認識し、異動や離職が生じる場合は、時期や引継ぎの面でも最善の努力をしています。</p>		
5. 人材の育成と支援				
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成する為の計画をたて、積極的に法人内外の研修を受ける機会の確保し、技術やノウハウの向上と共に、全員が介護福祉士を取得するように、働きながら日々トレーニングしていくことを進めています。</p>		
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>運営者は、管理者や職員が地域のグループホーム連絡会に加盟し同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしています。</p>		
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するために2ヶ月に一度職員会議を開き職場内の問題や意見、介護の工夫や環境づくりに取り組んでいます。</p>		
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が抱えている働く為の環境作りを良く把握し援助して、より一層の向上心を持って働けるように努めています</p>	<p>運営者は、管理者や職員個々の日々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が抱えている働く為の環境作りを良く把握し援助して、より一層の向上心を持って働けるように努めています。</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	信頼関係を築くために、初期の段階で協力機関を利用し、利用者の状態を把握出来るように努め、生活状況を定期的に共有しています。また、利用者との時間を出来るだけ設け、不安を解消出来るようにしています。また、家族との触れ合いや親しい仲間等と触れあえる時間を提供できるよう努力しています。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事業者として、サービスの内容及び提供例を説明し、また、ご家族からの不安・問題等を聞き取りにより把握し、提供するに当たり認識の違いが無い様に努めています。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族からの要望・不安等を把握し提供するに当たり、サービス提供の有無をご家族及び関係者との間で統一できるまで話し合いをしています。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事業者として、事前見学をして頂き施設設備及びサービス状況に納得頂けるよう関係者との連携を図り、利用者及び家族関係者に不安を取り除けるよう努めています。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者・職員は地域社会の中で生活しているという視点で支援できるように、地域行事に参加するようにしています。日々の生活の中で利用者の思いを聞き出すようにしています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	事業者では、定期的に状況を報告し、必要であれば随時連絡し、家族関係者との不安が無いようにし、信頼関係が築けるよう働きかけています。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	事業所と利用者・家族の関係を大切にする為に、事業所での行事等に参加していただけるよう働きかけをしています。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	職員が利用者との話をする上で過去の思い出を大切にするように、心がけ家族との話の中で、より深く調査できるように努めています。	○	回想法に対する理解を深め、レクリエーションを通じてサービスの提供を図り、また、スタッフに対して研修の機会があれば参加できるようにしていきたいと考えています。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員は、利用者の情報を共有・把握し、個人個人にあったケアを出来るように協力し、ユニットケアを大切にしています。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	当事業所では、過去の実績より介護度が低くなった場合及び家族の希望等で退所されたが経験がない為、今後発生した場合には、行事のお知らせ等の連絡を機につながりを大切にしたいと考えています。	○	退所されても地域情報を通じて行事毎を通じて、お知らせしていきたいと考えています。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者が個人であるという認識を持ち接しています。日々の生活中で声かけをし、一人一人思いや希望の把握に努めています。また、家族等の訪問時に情報を収集し、生活記録等を通じ職員で共有しています。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事業所では初回面会時、情報提供書を使用し情報を聞き取っています。入所されてからは、日々の生活の中で本人より話を聞いたり、家族等の訪問時に過去の情報の把握に努めています。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	情報提供書を参考に生活リズムを理解し、その中で出来る事、好きな事、したい事を見つけ出して支援に活かしています。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族の要望を聞き、カンファレンスを開催し職員と話し合いをして、生活記録ノート、カンファレンスで意見を基に介護計画を作成しています。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じて、利用者、家族の了解のもと見直しを行っています。退院後はカンファレンスを行い、介護計画の見直し、作成しています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の状態変化、日々の記録は生活記録ノートに記入し、スタッフの交代時には必ず申し送りをしています。また、カンファレンス、生活記録ノートを基に介護計画の見直しをしています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者、家族の状況に応じて、病院受診の付き添いなど対応し個々の満足度を高めるようにしています。利用者より希望があれば家族に外出をお願いするか、家族ができない場合は職員が対応しています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の社会資源との関係を大切に、事業所との交流に努めています。さらに、ボランティア・実習の受け入れが出来る体制作りをしています。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	利用者の希望・家族の希望により必要であればサービス事業者と連携し、サービスを提供している体制作りをしています。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	当事業者についてのお知らせ（宣伝）はしていますが、交流には至っていません。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者及び家族が希望する医師・医療機関にて受診できるように対応しています。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	地域に認知症専門員医がない場合は、関係者（他事業者のケアマネ等）を通じて、専門医に受診出来るように努めています。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員が不在の時があるが、随時対応できるようかかりつけ医と協力関係を築いています。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院している病院の医師との連携をとり、早期退院に向けた取り組みと、退院時にスムーズに当施設に戻れる様に準備が出来る体制をとっています。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合でも、本人・家族の希望を聞きながら医療関係と連携をとり急変時に対応できるよう職員間でカンファレンスを通じて意思統一を図り、安心して生活できるよう支援していける体制をとっています。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	終末期においては、家族と話し合いの場を持ち、安心して最後を迎える事ができる様利用者・家族との信頼関係を築いています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	利用者が他の事業者に移る場合は、支援状況及び必要な書類等の引継ぎをし、他事業者でもスムーズにケアを受けられ、安心して生活が送れるようにしています。	○	他事業者に移る場合以外に、退所される場合にもスムーズに行えるようにしています。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	事業所では、職員会議・研修を行い利用者の尊厳、プライバシーを尊重するように指導しています。又、個人情報についても秘密厳守を徹底しています。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	全てではないですが職員で決めていることが多く、利用者の意思で決定することが少ないのが現状です。	○	今後は、利用者本人が自分の意思で決めもらう事が出来るよう取り組んでいきます。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事・入浴は職員のシフト上決められた時間を優先していますが、他の時間は一人ひとりの生活リズムやペースに合わせて生活することができるよう体調に配慮しながら支援しています。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	身だしなみについて、特に外出時は職員と一緒に考え選べれるよう支援しています。理容・美容については2ヶ月に1回移動美容室が来て本人の希望にそった髪型になるよう取り組んでいます。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は食品会社より作られた物を取り寄せている為一緒に献立、調理することは出来ませんが、配膳、後片付けについては職員と一緒に行っていきます。		行事の際は、食材の取り寄せを中止し、利用者の希望を聞きながら献立を決定しています。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	おやつ・飲み物については、一人ひとり確認して利用者の状態に適したものを出すようにしています。たばこについては、現在喫煙者はおりません。	○	たばこについて、今後喫煙者が入所されたら他の方の迷惑にならないよう場所を配慮していきたいです。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	できる限りトイレで排泄出来るよう声かけし、時間を見ながら、トイレに誘導するように支援しています。		排泄チェック表を記録しています。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴については、シフトの関係で時間が決まっていますが利用者の方から「昼間入るお風呂は、もったいないけど贅沢で気持ちが良い」と言葉ももらいます。	○	入浴を拒否される利用者に対して、声かけの工夫や入浴方法の工夫を考え、入浴を楽しんでもらえるよう支援していきたいです。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	出来る限り日中活動してもらえるよう支援していますが、特に食事後居室で横になる方が多いのが現状です。安眠については、医師と相談しながら必要時には薬剤等使用しながら安眠について考慮しています。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	カンファレンス・職員会議を通じて利用者の得意分野、できることを把握し、役割分担をお願いしています。又、最後にはお礼の言葉をかけ、感謝の念を伝えています。		


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分でお金の管理の出来る方には買い物してご自分の財布から支払ってもらっていますが、ほとんどの方は職員が管理しているのが現状です。	○	定期的買い物へでかけ職員の付き添いのもとご自分で支払うといった社会性の維持に努めていきたいです。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	定期的に行っている活動として入居者の方々と外食・喫茶店に行く機会を設けています。季節・天候に合わせて毎日散歩するよう心がけています。		外を散歩するまではいきませんが、玄関先のベンチに座り、会話をしたり歌をうたったりして外の空気にふれています。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族の協力を得ながら出来る限り希望を叶えられるよう支援しています。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話については、本人の意思を尊重し、かけてもらっていますが、手紙については実施しておりません。	○	手紙について希望があれば行っていきたいです。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問時間については、特に規制せずいつでも対応出来るようにしています。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員理解しています。	○	身体拘束についての学習を行い理解を深めていきたいです。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の鍵はかけています。1F、2Fへの移動はエレベーターで自由に入出りできます。居室の窓より外へでられる可能性のある方の窓に鍵をとりつけています。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中プライバシーに配慮しながら、いつでも対応出来るよう見守っています。夜間も定期的に巡回し安して安眠できるよう支援しています。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険な物品は目の届かない所に管理しています。利用者のいる所で使用する時は目を離さないように配慮しています。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人ひとりの予測される危険についてはある程度職員は把握しています。危険性の高い利用者については目を離さないよう配慮しています。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急対応マニュアルはあるのですが、訓練については行っていません。	○	今後は、全職員応急手当の講習を受けられるよう働きかけを行って行きたいです。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	日常生活の注意として、整理整頓を行っています。6月に稲沢消防署の方に来て頂き避難訓練を行いました。また日頃から地域住民の方との交流を図っています。	○	定期的に避難訓練を実施し、職員の災害に対する意識の高揚を図って行きたいです。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切に した対応策を話し合っている	利用者に起こりうる危険に対して、毎月カンファ レンスを行い職員同士情報を共有するよう努めて います。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努 め、気付いた際には速やかに情報を共有し、 対応に結び付けている	日常の記録としては、毎日バイタルチェックにて 健康管理を行なっています。又、小さな事柄でも 記録に残すようにしています。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目 的や副作用、用法や用量について理解してお り、服薬の支援と症状の変化の確認に努めて いる	服薬に関しては定期診察医師の指示を受けていま す。職員は薬剤の理解と利用者の体調の変化の把 握に努めています。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解 し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体 を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘予防については、食材・水分補給など考慮 し、医師の指示を受けています。排泄記録をと り排泄パターンの把握に努めています。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食 後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援 をしている	職員が毎食後声かけにより、口腔ケアをしながら 観察しています。また、義歯の方は就寝前に必ず 取り外し、洗浄しています。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を 通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や 力、習慣に応じた支援をしている	毎食後食事の摂取量及び服薬の管理を、個別 チェック表を作成し記入しています。又、一人ひ とりのその日の体調に合わせて食事量を制限して います。		糖尿病の方に対してカロリー制限を行っていま す。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	職員には、インフルエンザ予防接種を受けるなど自己管理をするよう指導しています。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	水回りは必ず毎日洗浄しています。冷蔵庫の中の食材についても、日付を確認し消費するよう努めています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関には明るい雰囲気を出すことができるよう花を飾っています。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同空間には、利用者と一緒に作った物を飾っています。また、行事に合わせた雰囲気の中で季節感を味わえるようにしています。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	毎食時、利用者の座る位置が決まっており、その場所に来られ、お茶を飲んだり、トランプや塗り絵をして楽しまれています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所の際、利用者がそれまで生活していた環境に近いような居室になるよう、長年愛用していた物が活用されるなど、生活環境を変えない工夫をしています。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	利用者の体調を崩さないよう、温度調節をしています。又、こまめに空気の入れ換えをし換気に注意しています。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者が、自立・自走(車椅子)することが出来るように、キッチン・フローア・居室・トイレ・洗面所など全てバリアフリーになっています。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者全員の居室入り口には、名札を付け・写真を貼るなどして、自分の居室が分かるようにしています。	○	視線に合った位置にも名札を貼り、分かりやすくしています。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関にベンチを置き、外の景色を眺めたり会話が出来るようになっています。また、畑では、農作物と一緒に育てています。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)